

国際協力特別賞

「お互い」が笑顔に

練馬区立豊玉中学校 3年
丸山 千晶

学校に行くことができずに毎日働く子ども。きれいな水、清潔なトイレの無い国。みなさんはどんな支援の方法を思いつきますか。現地にボランティアに行く、募金に協力するなどたくさん方法があります。そんな中、私は最近とても素晴らしい支援の取り組みを知りました。

先日、私は家にあったチョコを食べました。ふと箱の裏を見ると、見知らぬ文字が書いてあったのです。それは「1チョコ for 1スマイル」というものでした。これは、チョコの売り上げの一部を使って、ガーナなどカカオの国の子どもたちを支援するという取り組みです。さらに調べてみると、具体的には学校の校舎の建設、学用品の支給、男女別トイレの設置などが行われたそうです。これらの内容は募金活動と変わらないかも知れません。しかし、決定的に違う良い点があると私は思います。それは「お互い」という点です。私たちがチョコを食べて幸せになるだけでも、支援国の子どもたちが笑顔になるだけでもない。お互いが幸せ、笑顔になれる取り組みなのです。

このことを知ってから私は、世界の人々と共に平和に幸せに生きるためには「お互い」という言葉を意識するべきだと思うようになりました。なぜなら、片方の国の人たちだけ幸せで笑顔になっても、それは全く国際協力とは言わないと思ったからです。私たちがチョコを食べて「おいしい」と言っただけでは意味がありません。反対に、支援することによって私たちが大変な思いをしたり、生活ができなくなったりしたら元も子もありません。支援する側もされる側も笑顔になることができれば、それが本当の国際協力です。

具体的に私たちができることは、くつや洋服、ランドセルなどを寄付することだと思います。使わなくなったけれど処分に困っていた大切なものを、必要としている人にまた使ってもらえたら、とても嬉しいです。もらった子どもたちも、必要だけど無くて困っていたものを無料でもらうことができればきっと嬉しいと思います。私自身は寄付をした経験はありませんが、子ども服のお店などに、寄付したいくつや洋服を入れる箱が置いてあるのを見たことがあります。今すぐにもできる支援なので、機会があれば入れてみたいです。

今までは国際協力と言っても、「募金にいっぱいお金を入れればいい」としか考えていませんでした。自分たちのことも相手のことも特に考えずただお金を入れるだけでした。しかしこれからは私の思う本当の国際協力、「お互い」を笑顔にする。これをいつも忘れずに行動します。そして自分の小さな行動が大きな国際協力となってくれたら嬉しいです。